

2019年度第1回C協議会 会議メモ

1. 日時：2019年6月24日（月）13：00～15：00

2. 場所：福德技研ビル3階会議室

3. 議事内容

(1) 先回会議（2018年度第4回協議会）の議事確認

竹田主査より前回の会議メモの確認を行った。

(2) 第1回C協議会の議論

①発注者の意識向上

- ・高知で、FA20%コンクリートをマスブロックに適用する予定（7月末）。高知県はオブザーバー参加。パイプクーリング、湛水養生を実施予定。表面品質をSWATで計測予定。
- ・FA研究委員会（徳島大）での検討（多量使用、耐久性、ひび割れ抑制）の成果がFA適用に繋がっている。
- ・マスコンでは、セメントリッチにする必要はない。長期的品質の保証が必要。
- ・砂防堰堤においてGmax:40mmから20mmの変更は不適切と考えられる。
- ・広島県発注の無筋コンクリートで、18-8-40BBはW/Cが60%以上となるので、24-8-40BB、27-12-20BBが使用されているが、マスコンのひび割れ抑制の観点からは不適切ではないか。
- ・広島県の方を協議会にお呼びして聞いてもらうことはできないか。⇒窓口は県の企画管理課
- ・高知県では、群馬県との交流会をもっている。
- ・山口県は、二宮さんと田村先生で進めていた。
- ・FA使用については、中国電力に協議会の参加を伺ってみる。

②チェックリスト

- ・九州での活動事例：スランプ5cmの硬練りコンクリートを90秒間の振動締固めを行っている。ひび割れは出ず、良好な結果を得ている。山口県のチェックシートは使用していない。⇒夏期と冬期の打込み方法の留意点も異なるのではないか。
- ・山口県、東北地整、日建連、中国地整（中国技術事務所）のチェックシートを集めて、内容を調査する。

③混和剤の適用

- ・収縮低減剤は、空気量のコントロールが難しい、強度発現が小さくなるなどが問題となる場合がある。高性能 AE 減水剤の使用は増加している。
- ・次回の協議会（8/21）で、フローリック様より「最近の混和剤の動向」について話題提供して頂く。

④広報活動

- ・セメント新聞（7/1）に、近未来コンクリート研究会の活動状況の記事掲載予定。

⑤石灰石の利用

- ・石灰石骨材の使用は、資源有効利用の観点から抑制したい。

4. 次回協議会について

- ・次回協議会は、8月21日（水）15:00～17:00を予定。

以上